

## 授業改善等に関する報告書（2023 年前期）

## 授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

【2023（前期）食生活科学科 健康栄養専攻】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント																
ライフステージ栄養学 a	於保 祐子	妊娠期・授乳期から子供の成長のライフステージにあわせて栄養について学びました。授業はビデオにとってmanabaにUPするようにしました。なるべくわかりやすく解説したつもりですが、授業内容が難しいと感じた時には、事後学修としてもう一度ビデオを視聴してみてください。理解が深まると思います。																
栄養指導実習 a	長谷川 めぐみ	栄養指導実習では、さらに栄養士のスキル向上にむけて担当者として尽力してまいります																
栄養指導論 a	長谷川 めぐみ	受講生の皆様の意見などに真摯に向き合い今後も精進してまいります																
栄養生理学	奈良 典子	今後の参考にさせていただきます																
解剖生理学 a	寛 慎治	解剖生理学aは、図を一見すればわかるものでなく、身につけるべき知識の量も多いため、易しい科目ではありません。からだの構造をちくわに例えるやり方は私の独自のもので、多くの学生さんに理解していただけたようで安心しました。講義のビデオのアップロードは、復習に役立つと好評でしたので、後期の解剖生理学bでも同じ対応を続けます。期末テストも高得点が多く全員が合格でした。ただし、言葉の説明をもっとわかりやすくして欲しいというリクエストもいただいており、今後さらに改善していくつもりです。解剖生理学aは主に人体の構造（肉眼レベルから分子レベルまで）についてお話しましたが、後期の解剖生理学bでは、その構造の知識を基礎に、様々な生理学的な機能についてより深くお話していく予定です。																
基礎栄養学	中村 彰男	「基礎栄養学」は栄養士・管理栄養士にとって大切な基幹講義です。二年生で学ぶ「応用栄養学」や「臨床栄養学」の基礎となる専門科目です。私は「生化学」も担当させていただいておりますので、「人体の構造と疾病の成り立ち」にリンクさせて相互で得られる知識と深い学びが実践できるように講義内容を組み立てました。「基礎」と前についていますが、決して内容は簡単なものではなく、この分野の専門家でもまだよく理解されていない部分が多い学問領域です。日々、新しい発見があり、報告されています。そのため、多くの教科書で書かれている内も最新の知見に全く追いついていません。そこで、講義では学会や国際誌に掲載された新しい報告を担当している教員も常にUp to Dateさせながら、知識の詰め込みではなく、皆さんがその仕組みを理解し、主体的に学べるように教材の作成に努めました。この「基礎栄養学」で学んだ内容をしっかりと学修し、「応用栄養学」や「臨床栄養学」につなげていただきたいと思います。																
基礎化学	山崎 壮	「基礎化学」では、栄養学と食品化学の専門科目を履修するために必要となる基礎知識を取り上げています。食生活科学科の3専攻で同一内容の「基礎化学」の授業を行っています。「基礎化学」は1年生の選択科目ですが、2023年度1年生在籍者に対する履修率は、管理栄養士専攻（以下、管理）で95%、食物科学専攻（以下、食物）と健康栄養専攻（以下、健康）で80%でした。食品衛生監視員・責任者任用資格の必修科目であるため履修率が高いです。授業アンケートの次の①～③の3項目について、「各専攻の評価ポイント」―「各専攻の専門科目全体の平均値」を見ました。 ①自身の成長実感、 ②この科目・分野をさらに学びたいか、 ③総合的な授業満足度 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>管理</th> <th>食物</th> <th>健康</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>-0.06</td> <td>-0.76</td> <td>-0.13</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>-0.22</td> <td>-0.66</td> <td>-0.29</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>-0.01</td> <td>-0.77</td> <td>+0.02</td> </tr> </tbody> </table> 食物科学専攻の評価結果は、ほぼすべての項目で専門科目全体の平均ポイントよりも大幅に低かったです。定期試験の成績の得点分布を見ると、食物科学専攻では化学自体に興味を持たない学生の割合が高いと考えられます。健康栄養専攻でも、化学に興味を持たない学生の割合が年々増えてきています。授業アンケートの自由記載の感想では、理解が深まったというプラス評価が多かった一方で、難しすぎて理解できなかったというマイナス評価もあり、両極端の感想がありました。これが近年の傾向です。  食物科学専攻と健康栄養専攻だけでなく、3専攻の中で最も理系の色彩が強い管理栄養士専攻を含めて、この3年間に、入学生に占める文系（非理系）志向の学生の比率が年々確実の増加していることから、典型的理系科目である「基礎化学」に興味を持たない学生がいることは当然の結果であると考えます。管理の学生にはぜひ履修してほしいですが、食物と健康の学生は、「基礎化学」を履修してみて化学に興味を持てなかったならば、自分が興味を持てるほかの領域を見つけて出し、その領域の勉強に自分のエネルギーを投入してほしいです。		管理	食物	健康	①	-0.06	-0.76	-0.13	②	-0.22	-0.66	-0.29	③	-0.01	-0.77	+0.02
	管理	食物	健康															
①	-0.06	-0.76	-0.13															
②	-0.22	-0.66	-0.29															
③	-0.01	-0.77	+0.02															
給食実務学内実習	中野 美樹	アンケート回答ありがとうございます。 今後もみなさんと一緒に実習に取り組んでいきましょう。																
給食実務校外実習	中野 美樹	みなさん アンケート回答ありがとうございます。 実習での貴重な経験をいかして頑張ってください。																
給食実務論	中野 美樹	アンケートありがとうございます。 貴重なご意見を参考に今後も、わかりやすい授業をこころがけてまいります。																
公衆栄養学 a	長谷川 めぐみ	今後も受講生の皆様の意見に真摯に向き合い精進してまいります																
公衆衛生学 a	佐々木 溪円	残念ながら、アンケートに回答してくれた人が5名のみでした。大学の授業は高校までと異なり、「口を開けて待っている」状況では学習到達目標に達することはできません。図書館の書籍で予習復習をし、疑問点をもちながら出席することが改善の一歩になるとと思います。																

【2023（前期）食生活科学科 健康栄養専攻】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
食育と調理	白尾 美佳	みなさん方の食育は大変よかったです。今後、皆さん方が食育を行う際に役に立つ授業になればと思います。
食品加工学 a	守田 和弘	総合的な満足度が全体平均より高いことから、熱心に取り組んでいただけたものと思います。
食品学 a	白尾 美佳	入学して最初の授業ですので、わかりにくかったり戸惑ったりすることも多かったかと思います。これからも、できるだけ、わかりやすく良い授業にしていけることができたらと考えております。
食品学実験 a	白尾 美佳	実験お疲れ様でした。わかりにくい点もあったかと思います。もし、質問等がありましたら個別指導でご連絡ください。
食品機能論	杉山 靖正	さらに知りたいことが見つかる講義だったや、他の講義も受講してみたかったとのコメントをいただき、多くのみなさんが積極的にそして自ら学修する講義となったことが窺えました。コメントをありがとうございます。講義中にもお話しした通り、機能性物質は新たに発見、認識されるものが少なくありません。また、誤った情報も多く発信されているのが現状です。今後も正確で新たな知見を得られるよう、最新情報の収集を意識してくださいね！
人体の構造と疾病	寛 慎治	「人体の構造と疾病」は病態生理学とよばれる医学の分野に含まれ、本来はとてつもない広大な領域をカバーします。この講義では、その中から栄養学的に欠かせないと思われる内容に厳選してお話しさせていただきました。講義は、解剖生理学に較べて発展的な難しい内容も含まれていましたが、よく理解していただけたようで、小テストおよび期末テストは全体としてもとても良くできていたと思います。自信を持ってこれからの栄養学の学修に取り組んで下さい。
生化学 a	中村 彰男	「生化学a」は栄養士・管理栄養士にとって大切な基幹講義です。そのため、これまで中高で学習してきた内容を復習すると共に、大学への専門講義となる後期の生化学 b につなげられるようにできるだけ難しい言葉を使わないで、皆さんが興味を持てるように講義させていただきました。それは一部の学生さんには退屈な部分があるかと思いますが、この課程は高校で生物学や化学を学習してこなかった学生さんも多くおられるのでこの点に今年は重点をおきました。しかし、できるだけ飽きないで主体的に学べるように最新の学会での話題もかみ砕いて紹介しました。大学における高等教育では主体的に学ぶことが大切で、入学した半年間のその学びを是非とも実践していただきたいと思っています。
理化学実験	山崎 壮	この科目は選択科目であり、履修者が在籍者の約3割でした。「理化学実験」は実験が得意でない学生のための訓練授業です。「理化学実験」の授業のねらいは、実験の基礎的・基本的手法を実体験して知ること、実験レポートの書き方を知ることでした。したがって、実験を失敗してもいい、むしろ失敗しながら覚えていけばいいと言っていました。一方、入学して初めての実験授業ですから、実験操作もレポートの書き方も苦労したと思っています。授業アンケートの自由記載の感想では、実験操作もレポートの書き方も理解が深まったというプラス評価が多かったのがうれしかったです。少しでも実験の知識や手法とレポートの書き方を理解できたのであれば、1年後期以降のほかの実験授業に役立つと思います。
臨床栄養学 b	高橋 加代子	健康栄養専攻の皆さんにとって、臨床栄養の授業は関心がないかもしれないと思って、どのようにすれば興味を持ってもらえるかと考えながら授業を進めていきました。ですが、「臨床の話となると難しいと感じてしまいがちですが、先生の授業はとてつもなくわかりやすく、実際の栄養指導について疾患ごとにお話しして下さったので理解が深まりました。ありがとうございます。」「実際の現場の患者様への対応の仕方だったりを話しながら授業をして下さって、とても勉強になりました。」このようなコメントを書いてくれて、本当に励みになります。ですが、「スピードが早すぎる回や資料の空欄が多すぎる」とのコメントもあり、非常に反省しています。話す速度は気をつけていますが、資料の空欄は見直します。アンケートをもとに、授業の改善を図りたいと思います。